

秋グロ考察

南のつりアドバイザー 野間辰美



大隅半島 間泊

11月に入り、海水温も22度前後になると、ようやく秋グロ始動と言った感じでしょいか？ クロ釣りフアンの皆様はもう磯に出かけましたか？

私は毎週のように、いろんな釣り場に行つてエサを撒いて、海の状態やエサ盗りを観察しています。もちろんクロを狙って行きますが、なかなかいい結果が出せないのが現状です。それでも色々なシチュエーションに対応して、試行錯誤を繰り返して、何とか、価値ある1尾のために頑張っています。

今の時期、海水温が高くてエサ盗りが活発で、クロの口にエサを届けるのは、なかなか難しいです。逆に海水温は高いのにエサ盗りがいない、もちろんクロも見えない、ツケエがそのまま残つて返ってくる状況もあります。この状況はヤバイです。実はこの取材の時もなかなかツケエを触つてくれず、手に負えない感じでした。今回はこの取材の時の状況を書きながら、秋グロを考えしてみようと思います。

実釣

11月2日、今回の釣りは、鹿児島県大隅半島の佐多岬の北にある間泊エリアです。潮は長潮です、この潮はあまり好きではないのですが、日曜釣りは潮を選べません。満潮が3時頃で干潮が9時頃なので、船の回収時間の昼3時までが

上げ潮になります。

ちなみに、この日はお客さんが多くて私達は2番船です。当然、主だった瀬は先客の方々が乗礁していて乗れません。また、この日は東からのウネリがきつく、更に北西方向からの強風。何とか瀬上がりした磯は、ウゼン鼻から中に入り込んだ地磯の「オカナベ」です。水深はそんなに深くもなく足場も比較的良く、寒の時期からノックミの時期は大型の地グロが釣れる磯です。

マキエとツケエ

今回用意したマキエサは、マルキユーの「グレパワーV9」「グレパワーV10」「遠投ふかせスペシャル」を各1袋ずつと、オキアミ生3kgを2角、アミエビ1角を2角、そしてツケエサはオキアミ半角と、船丸のMとLサイズを各1個ずつ。

V9は集魚効果とまとまりと拡散をさせる、V10はマキエを見えるため、これは重要でマキエの沈み具合と流れ具

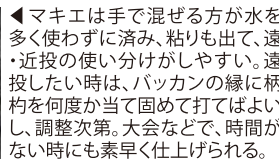
合がはつきり確認できます。遠投ふかせSPはその名の通り、マキエを飛ばす時にキッチリ固まり集魚効果もあります。



早速、足元(竿1本位先)にマキエを入れて様子を見ますが、エサ盗りが出てきません。潮はゆっくり左に流れているようです。たまた



▲ツケエのオキアミは頭と尾を取りハリ付け。喰い込み、遠投性もよい。頭に付いていると、遠投する時にハリからズレやすく、取れやすくなる



▲オキアミ生1角とアミ1角をベースに集魚材を各半袋ずつ混ぜ1回分として、2回に分けて作る。



ず仕掛けを入れてみます。仕掛けは図を参照して下さい。

仕掛け

仕掛けはいたつてシンプル、ハリスを2ヒロ半、そしてウキ止めからサルカンまでが半ヒロの、トータル3ヒロの仕掛けでスタートしてみます。秋磯は、大体このような感じでよいと思います。この仕掛けを基本にしてツケエが盗られる時は浅く、ツケエが残る時は深くしますが、ウキ止めを動かす時は10〜20cm位ずつ動かします。

さらに風の強い時や、上層が滑る時はウキ止めはさわずにサルカンのすぐ下にG5のジントンを1個付けて、ゆっくり落とし込むような感じで探つていたりします。私の場合は道系の張り加減を重視して浅くしたり、深く入れ込んだりを繰り返しながらタナを探っていきます。

当日の状況

足元の潮はゆっくり右のサラシに引かれる感じで、沖は底潮がわ



ゼクトL φ26×L40mm。重量10〜13.7g。深ダナ対応の5B、1号もラインナップ。
ブランクス 0号で13.1gと重量があり、遠投時や悪天候時などにも威力を発揮。ぜひ磯バックに入れておきたい。
フリクションD 8〜10g前後で、オールマイティーに使用して糸落ちよく浮力設定もきっちり。しかもリーズナブル!



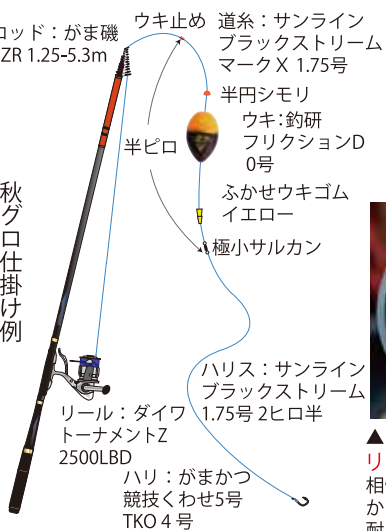
▼半円シモリは糸落ちよく風の抵抗も受けにくい。また、シモリ玉ではウキが入る時にフラつきやすく、魚が嫌うことがあり、半円シモリはフラツキを解消できる。



▲「ちょっと深く、速く釣りたい」時など、釣研のふかせウキゴムのフックアップを図る



▲黒潮色のブラックストリームは、ここ太平洋との相性も抜群! 強さとしなやかさで、荒磯の瀬ズレにも耐えながら大型をひきずり出してくれる!



◀がま磯RZR 胴調子で使い勝手がよく、強靱でタフな使用にも十分耐える。リーズナブルで、磯釣りレギナーにもオススメ! 「曲げて耐えていれば魚が勝手に浮いて来る」がま磯基本コンセプトを忠実に再現し、がま磯ロッド入門者にもオススメ!